

CONET 2003 の見どころについて

日 時：平成 15 年 9 月 4 日（木）～6 日（土）9：30～18：00
 ただし、4 日（初日）は 10：00 より開会式
 6 日（最終日）は 16：30 終了
 会 場：幕張メッセ 9～11 ホール（入場無料）
 Web Site：<http://www.jcmanet.or.jp>

JR 京葉線海浜幕張駅改札口から幕張展示場側に出て、目の前の広場の中央階段か、広場右端の階段を昇り、2 階デッキ部を京葉線に平行に約 5 分歩くと CONET 2003 の会場である幕張メッセ新館ホール 9～11 に着きます。入口には広いエントランス部が有り、受付で入場者証を手に入れます。また、必要な方はアテンダントの女性から説明を聞くことが出来ますし、関連資料を手に入れたり、書籍・文献などを購入することも出来ます。もちろん荷物にならないように帰りに購入することも出来ます。財布をお忘れなく！

また、ここで 4 日には 10 時より開会式が行われます。

機械を最初に見たいと言う方は、受付に向かって左側の階段から踊り場で下を見渡し、全体を把握して、1 階の展示フロアに降りるのがよいでしょう。

階段を降りたところから奥に向かい左右 2 列に代表的な建機メーカー等の展示スペースが並んでいます。世界を代表する日本の建設機械を目の当たりにすることが出来ます。展示内容はそれぞれの展示者が趣向を凝らし、来場者を引きつけるよう秘策を練っています。残念ながら企業秘密のようなものですので事前に詳細を紹介することは出来ません。土工事、基礎工事、トンネル、橋梁、河川工事等各種の工事用の大型から都市部等密集地等で使う小型までの最新の建設機械や最近の課題である環境・リサイクル対策、建設災害対策・安全対策、情報化施工に関する機械が見られ、専門家には互いの実務的な情報交換の場であり、一般の市民や子供達には建機への試乗やイベント等々、様々なパフォーマンスを楽しむ場です。

ホール 9 の奥の搬出口の外及びホール 11 隣の屋外でも展示があります。実機の実演や参加者による操作等が予定されており、心がけが良ければ秋晴れの空のもと貴重な体験が出来ること請け合いです。

一方、歴史や現状等々建設技術に関する知識を得てからそれらに使われている機械を見たいと言う理論派の方々にはエントランス部中央右側の階段から一階へ降りられることをお奨めします。

- ・特設コーナー・特殊コーナー
- ・先端施工技術コーナー
- ・小間展示
- ・機械展示

と見て行くのが順路となります。

踊り場から下を見ると最初に多面マルチビジョンによる映像が目に入り、その手前側では展示された日本の最先端のロボットが出迎えます。マルチビジョンの前は広場となっており、椅子がおかれ、ゆっくり座りなが迫力のある大画面で、建設機械の稼働状況、様々な構造物の施工状況、最先端技術の紹介、ロボットの作動状況や遠隔操作状況等、様々な内容の大迫力映像を楽しみましょう。

入口のロボットは、HRP-2（身長 154 cm、体重 58 kg の人型 2 足歩行ロボットで例えば人と共同で最大 6 kg までの荷物を運ぶことが出来る働き者です。残念ながら開催中は休養中で動きません）と HRP-1（宇宙飛行士型のロボットで、遠隔操作で指示を受けながら掘削機械を操作します。人型ですので人間用に開発された建設機械ならどんな機械にも適合します）の二つのロボットで、未来のロボットと協力し合う生活や工事を想像して下さい。

ロボットを見てから入るコーナーが CONET 2003 の新しい試みである特設・特殊コーナーです。各コーナーの概要を説明します。

特設コーナーは、パネル、模型等の展示からなり、種々の媒体を通じて建設事業や建設機械に関する情報を提供します。

パネルは、建設機械化施工技術と建設機械の歴史、世界に誇る構造物とそれを支えた施工技術・建設機械、関係団体の事業紹介等で、日本を代表する世界的な構造物、工事で使われた機械化施工技術と建設機械等を通して建設機械の重要性を理解してもらおうものです。また、日本の環境関連の法体系や制度など背景の説明もあります。パネルによる説明をより分かりやすくするため、パネルの前にパソコン等を利用した映像や模型もあり理解を助けています。

百数十枚のパネルを見てくたびれたら、所々に配置された椅子に座ってぐると見渡し、休憩しながら学ぶことも出来ます。運が良ければ休憩中のリフレッシュ用に主催者が用意した京都名物の手作り金平糖をゲットすることが出来るかもしれませんので、配布時間を憶えておくことをお勧めします。

世界に誇る建設技術としては、機械化施工及び建設機械

の歴史、大土工事、連壁やケーソン等の基礎工事、道路システムと高速道路、舗装工事、維持管理、鉄道システムと新幹線、本四架橋等、橋梁、トンネル、河川、ダム等世界的高水準の建設技術について知ることが出来ます。

最も機械化施工が進んでいると言われるシールド工法については、大深度高速マシンや異形シールド、上向きシールドなどの最新技術に関するパネルが展示されます。

環境・リサイクルコーナーでは、排気ガス、騒音などの環境対策、建設副産物のリサイクル、タイヤ等の最新のリサイクル対策について、その背景となる法体系や国土交通省の指定制度、エンジンや車体における最新の排ガス、騒音対策、リサイクル技術や製品の利用状況などがパネル等で示されます。

建設災害・安全コーナーでは、建設工事の災害、建設機械による事故の実態や事故・災害をなくすための様々な取り組みが紹介されています。

特殊コーナーには、アカデミーロボットコーナー、エンジンコーナー、キッズコーナー、販売コーナーがあります。

アカデミーロボットコーナーでは、各大学で研究が進められているロボットの模型や説明パネル等が展示され、最先端のロボット研究の状況が示されます。

東京工科大学等による道路補修用ロボットを始め、東北大学、産業技術総合研究所、筑波大学、中央大学、東京電機大学など10以上の大学・研究機関、企業等からの出展物等で、最先端の研究状況を知ることが出来ます。

また、汎用建設機械に簡単に装着するだけで、遠隔操縦をすることができ、人が立ち入れない危険な場所での作業を安全でスピーディーに行える簡易遠隔操縦装置である国土交通省九州地方整備局所有の「ロボQ」も展示され、屋外でのデモンストレーション時には来場者も手に触れることができます。

また、**エンジンコーナー**では、日本が世界に誇る低排出型エンジンのエンジン技術、NO_x、PM、すす、CO₂の低減方策やSPM・すすなどの排出物の低減状況に関するパネル展示、加えてエンジンのモデル、後処理装置等の展示があり日本の環境配慮技術の高さ、高度な性能が分かりやすく示されて、エンジンに詳しくない建設業関係者や市民・子供達にも十分理解できる内容となっています。

販売コーナーでは、建設機械関係者必携の日本建設機械化協会の出版図書、建設機械のミニチュア、千葉県・千葉市の特産物等の販売コーナー等を買うことが出来ます。

キッズコーナーでは、日本の代表的な建設機械の精巧なミニチュアの展示、販売とリモコンやラジコン式の建機のおもちゃ操縦や運転シミュレーターによる運転体験などがあり、大人から子供まで建設機械が楽しめるでしょう。

代表的な製造メーカーのミニチュアモデルは実機と同じような実寸に基づいて作られた金型をもとに製造された精巧なモデルで大人も欲しくなります。会場や通販で購入することも出来ます。ラジコン重機ではラジコンコントロールや有線リモコンで操作できる模型のバックホウなどを操作し、ちょっとしたオペレータ気分を味わえます。

運転シミュレーターはゲームセンターのゲーム機の建設機械版で、画面を見ながら臨場感のある建設機械の操作や建設工事に携わっている感覚が味わえ、大人でも難しい操作もありますが、子供から大人まで十分楽しめます。

特設コーナー・特殊コーナーを出るとその先に先端施工技術コーナー、小間ゾーンがあります。先端施工技術コーナーはCONET 2003新しい試みの重要な一つです。

先端施工技術コーナーは、人が働き、暮らし、憩う空間への優しいまなざしを大切にしている建設業13社が、環境保全、品質向上、安全化等を図るうえで、効率的な先端的施工技術を展示するコーナーです。いきいきとした社会環境の創造に向けて、蓄積された技術力・ノウハウに基づき、最適なソリューションを提供しながら「夢をかたちに一新した地球環境の創造」を続けていく姿が理解できます。

小間ゾーンはホール10から11にかけての中央部にあります。このゾーンは、縦横3m、面積9m²のブースを一つ以上用いてその中に、各種アタッチメント、情報化・無人化施工関連機器、基礎・地下処理技術関連展示、安全・環境等関連機器、社会資本整備事業関連機器等各種の専門メーカー、団体等の展示があり、さまざまな情報を得ることが出来ます。海外から参加もあります。是非訪れて話を交わしてください。楽しみが倍加するでしょう。

最後に見どころとして落とせないものに**国土交通省の展示スペース**があります。ホール11の一番奥にありますが、面積も約500m²と大きく、国の施策や頻発する土砂災害や地震災害時等に活躍する災害対策車の展示や試乗などであると思われませんが、まだベールに包まれているその展示内容には大いに期待がもてます。

さあ、CONET 2003を見に行きましょう！